

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定

課題の類型 1	課題の類型 2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために 令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現状の 数値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)	
①学校運営上の課題	いじめや不登校など生徒指導上の課題への対応	市全体で児童生徒の別室登校が増加しており、教員による別室登校対応が負担となっている。(令和5年度対象校は10校)	別室登校の児童生徒等の対応を、退職教職員者による学習支援や、主任児童委員等地域ボランティアによるコミュニケーションを重視した見守りを行うことで、学校に行きやすい環境、学校での居場所づくり等の整備を実施。	令和5年度の不登校支援対象校は10校だったが、その他の学校から不登校支援を求められた場合に推進員がスムーズに対応できるよう、令和5年度対象校での情報を提供し、空き教室等を利用した退職教職員や地域ボランティアによる支援を実施する。	不登校の児童生徒が登校した際の心の安定と居場所を確保しつつ、児童生徒が教室で授業を受けられるようになることを目標とする。慌てたり、急かしたりせずに、児童生徒一人一人の個性に合わせて対応する。	不登校の児童生徒が学校に来やすいような環境づくりと支援する人材の確保を行った学校数。	10	校	12	11	2	別室登校の支援をいただく人材探しに難しいことが課題として挙げられ、支援が必要であっても人材が見つからないと実施できないため、目標達成に至らなかったと考えます。今年度スクールソーシャルワーカーによる、地域コーディネーターを対象とした不登校に関する講話を行いました。今後も継続して地域の方々から不登校について考えていただく機会を設け、人材を育成していく必要があります。
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	・放課後児童クラブがないため、放課後における児童の安全が確保できない校区がある。 ・校区が広く、生徒数が少ない学校であるため、一度帰宅すると友達と遊ぶことが難しい環境にある。 ・年々地域ボランティアの人材が不足してきている。	放課後児童クラブがない校区においては、地域ボランティアを活用し、放課後子ども教室を実施。ハルーンアートなどの様々な体験活動や宿題のサポートを行っている。	地域ボランティアが不足することが懸念されるが、令和5年度と同様に放課後子ども教室を実施予定。	放課後子ども教室に参加する保護者へのアンケート結果によると、放課後子ども教室の実施は低学年児童の保護者から期待されている。参加する子どもたちも多くのことを体験する機会となるだけでなく、地域住民との関わりを持ち、地域一丸となって子どもの成長を育む。	放課後子ども教室の存続と有意義な取組の実施。	2	校	2	2	3	地域ボランティアが不足する中、地域人材はもとより、他校区や県の体験活動ボランティア派遣事業を活用するなどして、昨年度並みの実施回数を達成することができました。